

NMO OfficeLetter

植物工場スプレッド民事再生を申請！

植物工場で著名な京都市に拠点を置く株式会社スプレッドが民事再生を申請した。葉物野菜の工場での栽培という技術をベースに、2006年に設立された。もともと下京区のKRP(京都リサーチパーク)内にあったトレードという野菜の流通会社がベース。亀岡市篠にレタスの生産工場を建設し、照明と水耕栽培を活用しレタスの製造事業に着手した。一時は生産規模が国内最大であった企業に何があったのか。

<解説>原因は過大な設備投資。2018年に木津川市に



亀岡工場



「テクノファームけいはんな」を開設。さらに、この技術をフランチャイズ展開する事業会社を設立し、中部電力と合併で静岡県に合同会社を設立し、事業を開始した。しかし、合同会社の事業を立ち上げる際にシステム上のトラブルが発生し、

当初の計画が大幅に後退した。歴史的な経過をとどれば、2010年3月に1億5000万円だった売上高は、2012年3月には5億円を超えたが、多額の先行投資に対する減価償却費などの費用負担がカバーできず、たびたび大幅な赤字を計上し債務超過に陥った。2018年の「テクノファームけいはんな」への投資も重たかったが、2018年3月期には債務免除益を計上し、一時的に債務超過を解消した。その後、2022年3月期にはピーク売上17億1100万円を計上し、2022年8月には事業会社及びエンジェル投資家から40億円を調達した。ところが一転、2022年9月には24億円の特別損



テクノファームけいはんな

レタス栽培のスタートアップ企業 スプレッド(京都)が民事再生法の適用を申請

livedoor News

失を計上することになり、32億円の最終赤字を計上し、債務超過に転落。コロナ禍のマイナス影響もあり、売上が減少するなかで連続して赤字を計上し、本年4月には亀岡の工場の操業も停止していた。申請時点の債務総額は約40億円との報道もあれば、18億円前後という情報もあり、まだはっきりしていない。一世を風靡した植物工場だが、京都では草分けの事業会社も清算破綻し、事業としてはまだ安定していないのが現状だ。今後の動きに注目だ。